



小学校高学年 ～中学生向け 年 組

気になるとちぎ

話題の人に聞く

□351□

2024年7月3日付・下野新聞16面

「知的障害者のスポーツ活動支援の取り組みを教えてください。」
「陸上、競泳、卓球など八つの競技があり、地域ごとに練習しています。選手のことをアスリートと呼びます。現在、本県で所属するアスリートは子どもから大人まで約150人です。各競技プログラムや2年に1度の地区大会の運営をはじめ、共生社会の実現に向けたさまざまな活動を行っています」
—SON・栃木に入ったきっかけやトレーニングの内容は。
「小学6年生の時に母と陸上の練習を見学に行き、走ることが好きだったので入りたいと思いました。専門は1500メートルで、自己ベストは6分30秒です」「私が所属する

NPO法人スペシャルオリンピックス日本・栃木
アスリート委員長

ごう だ れ お
合田 怜央さん(20)



交流促進のために開かれたボウリング大会で、アスリート仲間と話す合田さん(中央)＝宇都宮市

宇都宮の陸上プログラムは、毎週土曜に2時間の練習があります。学校の後輩たちと練習の合間に話すのが楽しいです。熱心に自主練習する先輩

もいて、「やるぞ」という姿に刺激を受けます」
—SONは競技力の向上だけでなく、スポーツを楽しむことや障害のある人の社会参加にも重き

2003年、宇都宮市生まれ。宇都宮大共同教育学部付属特別支援学校高等部卒。自閉症の陸上選手。22年からSON・栃木のアスリート委員会委員長を務める。

を置いています。自身はどんな成長がありましたか。
「アスリートの中には仲間との交流を楽しみに参加している人もいます。ハイキングや交流会などのイベントもあり、違う競技の人との出会いもあります」
「私はもともと競争心があまりなかったのですが、活動の中で『勝ちたい』という気持ちが湧いてきました。ライバルと競い合えるようになったことが、自分の成長だと思います。練習の声出しも以前より積極的になっています」
—特に印象深い思い出を教えてください。
「2022年に広島県で開かれたSON夏季ナショナルゲームに出場し、4×100メートルレ

で優勝したことです。1500の直後でしたが、無事に走りきれました。仲間と新幹線に乗って広島に行けたことも思い出です。初出場だったので、背中を押してくれたコーチや父に感謝しています」

—障害者スポーツへの理解は高まっていると感じますか。
「はい。大会の際には、温かく迎えてくれるボランティアさんがたくさんいて、ありがたき思いです。全国大会を開くには多くのボランティアの協力が必要ですが、いつか栃木で開催できたらうれしいです」

—SON・栃木は設立20周年です。今後の期待は。
「もっとたくさんのアスリートに参加してほしいです。競技によつては、高齢化で活動できなくなつた地域もあると聞きます。私もアスリート委員長としてみんなの意見を伝えたり、練習で立ち止まっている人に声をかけたりして、みんなが楽しく活動できるように盛り上げていきたいです」

(聞き手 小口華奈子、写真 森田大地)

設 問

【1】 次の意味を持つ外来語を記事から抜き出しましょう。

- (1) 運動能力に優れた競技者
- (2) 競争相手
- (3) 社会をより良くする活動に、無償で自発的に参加する人

【2】 合田さんはSONに参画する中で、自分のどんな点に成長を感じていますか。

【3】 合田さんがSONの委員長に就任したのは何歳のときですか。最も近い年齢を選びましょう。

ア 16歳 イ 18歳 ウ 20歳 エ 22歳

【4】 本文の内容に合う選択肢を一つ選びましょう。

- ア SONは競技力向上を第一義に掲げ、精力的に活動している。
- イ 合田さんは本県で20年後に開催予定の大会で、活躍が期待されている。
- ウ 合田さんの専門競技はボウリングである。
- エ SON・栃木では1年に2回、地区大会を開催している。
- オ SON・栃木では他競技のアスリートと交流できる催事もある。